



国際ロータリー第2800地区 1959年6月9日創立

鶴岡ロータリークラブ

ロータリー:
変化をもたらす

例会場 東京第一ホテル鶴岡(鶴岡市錦町2-10)

例会日 毎週火曜日(12:30~13:30)

平成30年 5月15日(火) 第2845回 例会 (本年度第38回)



5月29日(火)	クラブ休会
6月 5日(火)	鶴岡ロータリークラブ創立祝賀呈茶会
6月12日(火)	通常例会
6月19日(火)	クラブ休会



Eメール◎tsuruoka08@rid2800.jp ホームページ◎<http://www.tsuruokarc.org/>

会長報告

会長/木村 節

今日の例会は、何時になく出席率が低いように見えますが、本年度も今日を含めあと5回の開催となります。会員の皆様には積極的な例会参加をお願いしたいと思います。

当館のホテル改修状況ですが、お陰様をもちまして今週金曜日に内覧会を開催できるまで工事が進んでおります。メインである本館フロント及び旧ピコット(待合スペース)もほぼ工事完了の予定です。今後は、本館3F宴会場、新ブライダルサロンの改修工事をもって全工事終了となります。7月中旬にはグランドオープン運びの予定です。

来週は、孟宗汁家族例会です。東京東江戸川RCの皆様をお呼びしての開催です。会場も、参加人数の増加もあり今回は紅屋さんで開催します。もちろん湯田川孟宗を使ったお料理です。前田さんの料理を楽しみにしたいと思います。

幹事報告

幹事/佐藤 詩郎

○鶴岡市民憲章推進協議会

花いっぱい運動の実施について

日時: 6月4日(月) 午前8:30~

場所: 鶴岡公園東側

○出羽庄内国際村

ワールドバザール

日時: 6月10日(日) 午前10:00~

場所: 出羽庄内国際村

茨木のり子・二つの詩について

『茨木のり子 六月の会』事務局長 戸村 雅子氏

皆様こんにちは。今日はご招待いただき有難うございます。時間が短いようですので、詩を2つご紹介



介して、今日の話とさせていた
きたいと思います。

詩というのは難しい、分らない、役に立たないと思ってらっしゃる方もおられます。これから茨木さんの詩をご紹介しますますが、耳だけで想像しながら聞いてほしいと思います。茨木さん31才の時の詩、「わたしが一番きれいだったとき」。紅顔の美少年の頃を思い出しながらお聞き願いたいと思います。

〈わたしが一番きれいだったとき〉朗読(プリント参照)

どうですか、茨木さんの詩。難しくない、分かる、面白い、そして役に立ちます。茨木さんは敗戦の時19才でした。日本が180度転換し、軍国主義から民主主義へと国が変わる。じゃあ私も変わっていいのだということで、悩みに悩んで詩人になりました。第一詩集を28才で出しました。その中にこの詩があります。戦争について本当に悲惨な実態を小説や詩に書いた方はいらっしゃいますが、茨木さんは、分かる言葉で、悲惨さがなく、どちらかというと明るい感じがします。餓死、戦病死など色んな悲惨な死があるのに、「たくさん死んだ」というふうな書き方。そして私が一番好きなのは、その若者がきれいな眼差しだけを残して皆死んでいったというこの第三連です。茨木さんの青春の盛りに男たちは国のことしか考えないで、しかもまっすぐ国を見つめ戦争に参加していきました。軍国少年として育てられ、軍国少女として育てられ純粋に自分自身の命を国にささげるというふうなまっすぐな気持ちが、このきれいな瞳にあらわれています。挙手の礼しか知らない青年たち、優しい言葉も贈り物も貰えなかった私。青春を戦争に奪われた悔しい思いがこの「わたしが

出席報告

会員数	31名
出席	17名
出席率	62.96%
前々回確定出席率	75.00%

RI会長 イアン H.S. ライズリー

地区ガバナー 鈴木 一作

会長/木村 節 副会長/菅原成規 幹事/佐藤詩郎 会長エレクト/武田啓之
会報委員会/阿蘇司朗・菅原成規・迎田 健・前田 優・真島吉也

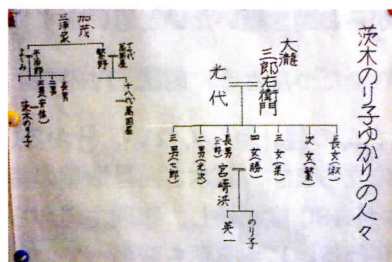
事務局: 山形県鶴岡市錦町2-68 鶴岡SSビル1F TEL (0235) 28-3375 FAX (0235) 28-3376

一番きれいだったとき」という言葉に悲しみとか怒りとか恨みとか、それから自分自身に対する悔いというようなものが込められているのではないか。勤労奉仕に明け暮れて、男たちは国や家族を愛しながら戦死してしまった、そういう本当に悲惨な戦争の事実が分かってくるのですが、茨木さんはそういうことを表に出さないで、やさしい言葉で美しく書く、これが茨木さんの書き方です。苦しいこと、惨めなこと、怒りや絶望も、彼女の心を通ると美しい言葉、きれいな言葉、さわやかな言葉、元気が出る言葉に変わります。ですから非常にわかる、それから楽しい、そして励まされるという意味で役に立つということで、皆さんから親しまれる詩人になっていくわけです。では次の「答」という詩を読みます。

〈答〉朗読（プリント参照）

この詩は茨木さんが 61 才の頃に作られた詩です。青春を振り返ってそしてさわやかな詩をつくってからもう 50 年以上になるわけです。

茨木さんが 14 才というのは昭和の 15 年ころ、14 才の私は突然祖母に問いかけた。おばあさんがひどく寂しそうに見えた、おばあさんは長女の淑さんを亡くし、茨木さんのお母さんの勝さんを亡くし、そして三男の七郎さんが出征している。大地主の大



奥様で地位的にも社会的にも経済的にも恵まれ、豊かな家庭の方でいらっしゃる訳ですが、幸せだったのはいつ

だったと聞かれて、火鉢のまわりに子供たちを集めて、そしてかきもちを焼いてやったときと即答します。雪国のどこの家庭でもこういう場面があったと思いますが、それが一番幸せだった。火鉢のまわりに子供たち 5、6 人、お子様は 7 人いらっしゃるわけですから、もう本当に子供たちみんな集めて、そしてかきもちを焼いてやった時と答える。「幸せ論」と私はこの詩を捉えています。私は昭和 16 年生まれで、子供のころかきもちを焼いたり火鉢のまわりに集まったり、囲炉裏で一家団欒をしたりという、このおばあさんの幸せな光景を、自分のこととして思い出します。現代の子供たちはどうでしょうか。それから私たち自身の幸せに対する思いはどう変わったでしょうか。今 50 代、60 代、70 代となってきた時に、本当に幸せってというのは何かというようなことをこの詩を読みますと考えさせられます。茨木さんが最後に「かきもちのように薄い薄い塩味のものを」と書いていますが、おばあさんとあの幸せを自分も共有した、でもそれはもうずっと昔のことになってしまったなという、そういう寂しい気持ちで振り返っているんだと思うのです。茨木さんは 48 才の時に旦那様を亡くされます。それから茨木

さんが 2006 年に亡くなられるまでの 31 年間、お子さんはいらっしゃる一人で生活をされます。その寂しさですね、それをつくづく幸せってなんだろうかなというようなことを詩にしたんだろうと思います。そしてそれと同時に読んでくださる方の「幸せって何？」というふうなことを尋ねているのではないかと思います。

たくさんの方が茨木さんの詩を読んで、元気をもらったとか、励まされたとか、勇気がわいてきたとか評価をされるようです。私自身もそうです。そして年をおいまして、また辛辣な社会風刺の詩も作っています。やっぱり現代がどんどん変わる中で変わらないものはなんだろうということを尋ねる詩もたくさん作っていらっしゃいます。たった二つだけの詩を紹介させていただきましたが、私自身も詩を読んで、美しいものを心の中に抱きながら生きるっていうのは大切なことだなと思います。美しいものというのは、絵であったり、音楽であったり、小説であったり、色んなものがあると思いますが、私は言葉、美しい言葉、勇気が出る言葉、それから励ましをもらえるような言葉、そういうものを、本とか詩とか俳句・短歌そういうものから自分でみつけ、そして生きていきたいと思っております。



委員会報告

◆ゲスト

『茨木のり子 六月の会』事務局長 戸村雅子氏

◆メイクされた方

阿部純次君 藤川享胤君 木村節君 越智茂昭君
佐藤孝子君 佐藤友行君 迎田健君 菅原成規君
武田啓之君 富樫松夫君 本間厚君 小林健郎君
榎本久静子君 富田喜美子君 樋渡美智子君
西川富美子君 阿蘇司朗君 田村一美君



スマイル

樋渡美智子君 私と息子の親子展に沢山おいでいただきありがとうございます。私は、初めての、息子は 4 回目の展覧会発表になります。7 日間ほどの期間で、35 名ほどご来場してくれました。そして、戸村さん私と同じ大石田出身、ご活躍をいつもうれしく思っていました。

上野欣一君 すばらしい詩のご紹介誠にありがとうございました。

真島吉也君 講演ありがとうございました。数々の賞を受けられおめでとうございました。

富樫松夫君 ①戸村様、貴重なお話をして頂き有難うございました。②樋渡さん親子での個展すばらしかったです。

富田喜美子君 思わずひき込まれるような詩の朗読でした。まだまだ茨木さんの世界を紹介してほしいと思います。